

つなぐ えがく みのわの未来



「町発足70周年記念ロゴマーク」

このロゴマークは、手をつなぎ未来をえがく様子ともみじ湖のもみじのトンネルを表現しています。これからも輝き続ける箕輪町の未来をイメージしています。

町発足70周年を迎えました

つなぐ
えがく
みのわの未来



昭和62年(1987年)12月 渋の湯「ながた荘」営業開始

昭和44年1月に長田温泉保養センターとして営業開始しましたが、増築等をくり返し、新たに渋の湯「ながたの湯」として営業開始しました。平成9年1月に温泉掘削を開始し、同年7月に掘削に成功しました。



現在の「ながた荘」



昭和44年(1969年)8月 皇太子殿下ご夫妻来町

当時苗木畑だった長田地区の一角(現在の浄水場)を天皇皇后両陛下が伊那谷視察に回られました。現在は宿泊施設「ながた荘」に記念碑が建立されています。

昭和30年(1955年)年1月1日 箕輪町発足

昭和30年1月1日、中箕輪町、箕輪村、東箕輪村が合併し、箕輪町が誕生しました。当時の人口は18,262人、世帯数は3,573戸でした。



昭和53年(1978年)9月 「聖職の碑」上映開始



大正2年8月、修学登山のため駒ヶ岳に向かった中箕輪尋常高等小学校(現箕輪中部小学校・箕輪中学校)の生徒・教師らは、山上で大暴風雨に遭遇し、11人の尊い命が犠牲になりました。昭和51年には、作家の新田次郎氏が事故を題材にした小説「聖職の碑」を発表、昭和53年には映画化され、広く知られることとなりました。

平成

2000

1995

1990

1985

1980

1975

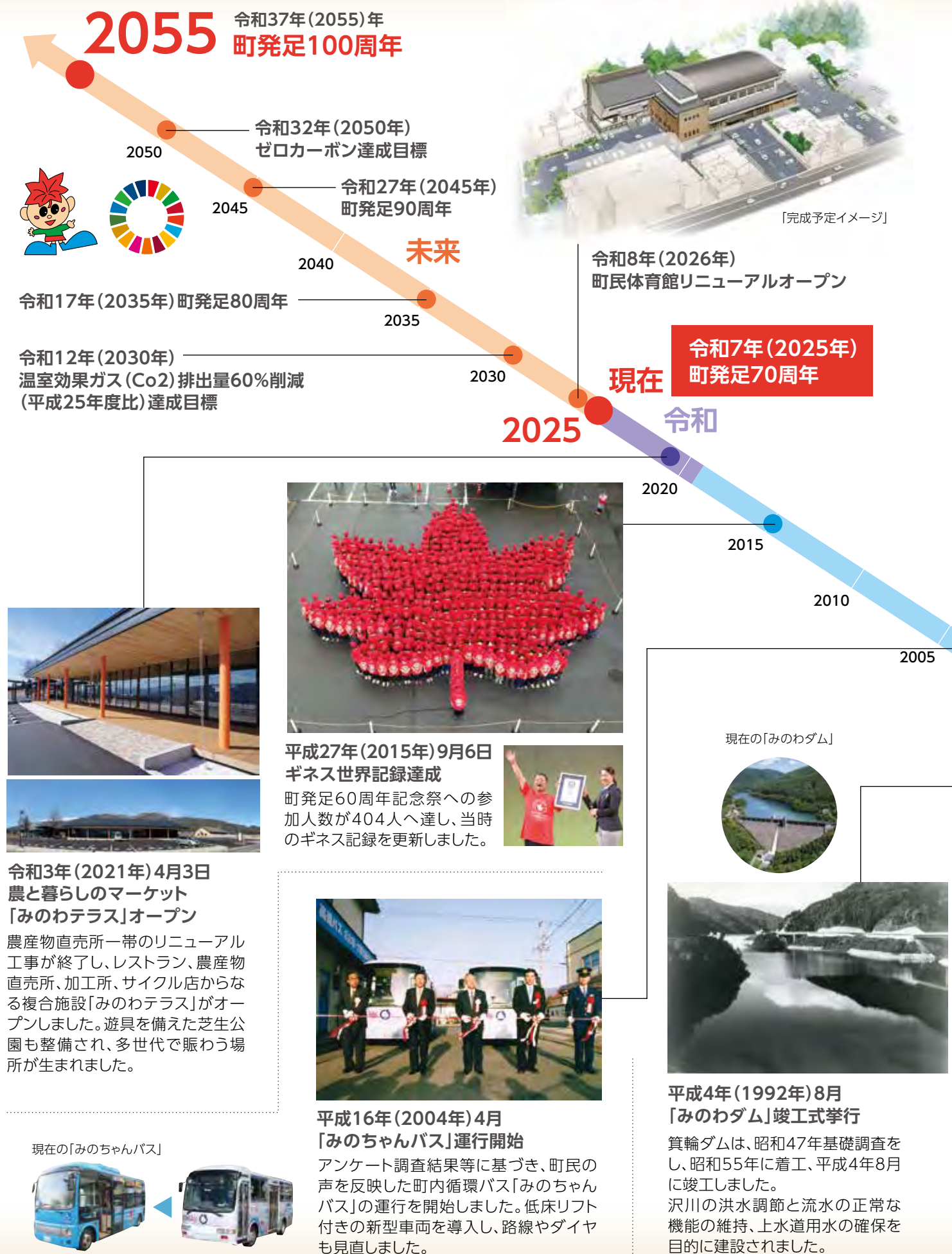
1970

1965

1960

1955

昭和



箕輪町と同年生

70歳4人がみのわ愛を語る

箕輪町発足70周年を記念して、「令和7年に70歳を迎える町民」の方に声をかけ集まっていたいただいた4名に、幼少時代の思い出から、未来の子どもたちに伝えたいことまで、箕輪町への想いを語り合っていました。



幼少時代の思い出

唐澤さん 昭和30年代になります

が、貧しかった時代で、いつもお腹を空かせていました。野山をかけ回って、春は山菜、夏は川で魚獲り、秋は山でキノコ採り、冬はそり遊びをしていました。あとは、家の手伝いをさせられていました。学校から帰ってそのまま遊びに行くと、怒られたこともありましたね。

三澤さん 近所のいろいろな年代

の子どもたちと缶蹴りなどをして遊んだことが、一番の思い出です。それと常会単位のバスハイイクで鬼押出しにも行ったことも楽しい思い出です。

思い出のある風景

中村さん 水路橋を通って中学へ

通っていました。外灯も少なく、暗くて怖かったことを思い出します。今でも近くを通ると懐かしくて、当時のことを思い出します。

竹腰さん 中町の国道沿いに住んでいます。当時いまの八十二銀



三澤 ちと江さん 松島出身

行の位置に役場があつて、その北側にあったバスの車庫で遊んでいた管理人さんによく怒られていました。いまの庁舎の辺りは、草原や畑、果樹園だったと思います。

70年での箕輪町の変化

唐澤さん 一番変化したと感じて

いるのは「農業」です。小学校の頃は、牛や馬で畑を起こして、その後すぐに耕運機ができて、機械で田んぼを起こすけれど、田植えは手で植えて、稲刈りは手で刈った。それが今では田植え機になり、稲刈り機になり、70年間で農業はものすごく変化しました。その分農家に余裕ができて、工業などの産業が発展したんだと思います。

中村さん 昔は道路は舗装されて

いなくて、真ん中に草が生えていたりしましたよね。車もほとんどなかったのが、いまでは一家に数台あるようになったことが大きい変化だと思っています。

竹腰さん 私は家を継いで、こん



竹腰 公夫さん 松島出身

にやく屋をやっていたので、「商業」がどのように変わったのかをお話します。私の小さい頃は、町の中心部にほとんどのお店があつたんですが、私が継ぐ頃に法律が変わって、国道のバイパス沿いに大型店ができ始め、「商業」の中心がバイパスへ移りました。それに伴って個人の店舗が、少しずつ減っていったように思います。

箕輪町の魅力と誇り

三澤さん 自然が豊かで、人が優

しいところが魅力だと思います。上古田から仙丈の方を上の方から見た景色は素晴らしいと思つていつも見えています。こういうところに住めて嬉しいと思いますし、また人とのつながりを通して、温かい気持ちを持つている人が多いなと感じています。

竹腰さん 災害や事件が少ない、治安の良いまちだと感じています。「安心・安全」なまちをずっと続けていきたいと思つています。

オススめの風景・人・モノ

唐澤さん やっぱ「赤そば」や

「もみじ湖」はオススめの風景です。西山から見る南アルプス、蓼科山、天気が良ければ八ヶ岳がちゃんと見えるかな。この風景は本当に大切に残していきたいと思つています。「赤そばまつり」など、これらを残していくためには、次世代の担い手が必要です。移住された方にも仲間に入ってもらつていますが、守つていってほしいと思います。

竹腰さん なんとと言っても「もみ

じ湖」「箕輪ダム」「紅葉」ですね。それと、ながた自然公園とその周辺。「赤そばの里」とその周辺などですが、一番気に入っているのは菅野高原から見た箕輪町の景色がオススめです。それと、人としてすごいと思つている人は、箕輪町地域おこし協力隊のみなさんです。みなさん、町民よりも箕輪町のことを考えてくださつて、本当にありがたいと思つています。

守っていく、風景・人・モノ

三澤さん いままで出たような、せっかくある良い景色などを、次世代の人たちが、なんとか守つて、これから先につないでいってほしいです。先ほど話に出た、地域おこし協力隊のみなさんや、



ほとんどが初対面でしたが、同い年同士ということもあり、和気あいあいとした雰囲気で盛り上がりました。

みのわ BASE にて

外から来てくれた方たちの力も借りながら守っていかれたらいいと思います。

今後、どんな箕輪町になってほしいか

唐澤さん 箕輪町は、まちの中心から10分そこそこどこにでもいける、こじんまりまとまったまちなんですよね。そういった地の利を生かして、町民みんなが団結して、力を合わせてまちの発展を考えていけるようになっていけたらいいと思います。人口減少は食い止めながら、みんなで知恵を絞って、住みやすいまちづくりをしていけたらいいんじゃないかなと思います。

三澤さん ご近所同士が声を掛け合ったり、仲良くしていく温かい気持ちの人たちがいる箕輪町になってほしいと思います。助け合う心が育てれば、災害や何か困ったときにみんなで助け合いができると思います。

未来の箕輪町のために自分ができること

中村さん 民生委員をやっていますが、年々高齢者の方が増えていて、何うお宅も毎月増えています。まず、自分自身が健康でなければならぬと思います。健康寿命を伸ばして病院にかかる回数を減らし、友だち同士で仲良く楽しくやっていくのが、案外箕輪町のためになっていくんじゃないかと思っています。

竹腰さん 「高齢者が、元気に明るく仲良く暮す」これが一番、みなさんや町のためになる。その生活のなかで、箕輪町をPRしたいと思っています。町外に出る時のお土産や贈り物はすべて箕輪町で作ったものにしていきます。

今後の抱負

唐澤さん 自分の健康に気を遣うことですね。趣味で毎日山歩きをしています。趣味を楽しみながら「健康で健康寿命、健康で長生

き」を心がけていくことは大事なかな、と思います。

中村さん 趣味で、クラフトテープでバッグや小物を作っていて、いま数人の方にお教えしているんですが、手先や頭も使うので、お年寄りの認知症予防にもなって、みなさんに喜んでいただいています。いま、うちの常会にはお年寄りが集まる「ふれあいサロン」がないので、自分の張り合いにもなりますし、サロンを立ち上げてみたいと思っています。それがいまの抱負です。

未来ある子どもたちに伝えたいこと

三澤さん 箕輪町がこんなに素晴らしいということを誇って、ここで育ったということを誇りに思ってもらいたいということと、進学などで町外に出ることもあるとは思いますが、一旦外に出ることで箕輪町の良いところを再認識して「ぜひ箕輪町に戻ってき

てほしい」と伝えたいです。

竹腰さん 人に自慢ができることを見つけて、ひとつやってもらいたい。若いときにいろいろやってみて、これを突き詰めたいと思うことがあったら、ぜひ、とことんやってみてください。夢中できつと楽しい人生が待っていると思います。そして、箕輪町にぜひ暮らしてほしいと思います。最後にもう一つ、若いみなさんに、政治に興味を持ってもらいたい。自分の生き方が変わってくると思います。ぜひ政治に興味を持って、参加していただきたいと思います。

箕輪町

企画振興課みのわの魅力発信室

いろいろとご意見をいただきました。ありがとうございます。お話を聞き、箕輪町は、自然や人など誇れるものがたくさんあるとことを再認識することができました。これらをぜひ、次の未来へつないでいきたいと思っています。それによって、今度は未来の子どもたちに、将来の箕輪町というものを、描いていてもらいたいと思います。

みなさんも、まだまだお元気でいていただき、今後も、箕輪町に興味を持っていただき、活動していただけたら幸いです。



唐澤 修身 さん 上古田出身



中村 孝子 さん 八乙女出身